

男声合唱団エルデ：2018年度活動計画（案）

[重点方針]

- ① 賛助金を有効活用し、団会計及び定演会計の健全化を図る。
- ② 来年の第13回定期演奏会へ向け充実した準備期間の一年とする。
各団員それぞれ研鑽に励み、個人としても団全体としてもより一層のレベルアップを図る。
- ③ 地域に根ざした遠藤活動を基本に少なくとも各パート1名増の団員確保を目指す。

1. 演奏会等出演

- ① 多摩に「水のいのち」を歌う会演奏 9月30日(日) 府中の森芸術劇場どりーむホール
- ② 日野市民合唱祭 10月21日(日) ひの煉瓦ホール
- ③ 三多摩合唱祭 11月〇日(日) ひの煉瓦ホール
- ④ 八王子市民文化祭合唱の集い 11月〇日(日) 八王子いちょうホール(?)
- ⑤ その他
 - ・新たな合唱イベントへの参加の検討
 - ・各種イベントへ積極的に参加し演奏機会を確保する。
 - ・老人ホーム・病院等からの出張演奏依頼には積極的に対応する。
 - ・友好合唱団の演奏会へは賛助出演等積極的に協力する。

2. 練習

- ① 毎週土曜日の全体定期練習の充実（出席率向上、予習復習の徹底）
- ② 月一回のパート練習の実施
- ③ 月一回の希望団員へのヴォイストレーニングの実施
- ④ 全員参加合宿の実施（6月30日～7月1日、八王子わくわくビレッジ）
- ⑤ 練習録音（HP掲載分を含む）、MIDIファイル/ICレコーダ等の個人練習用ツールの充実
- ⑥ 必要に応じた臨時練習（全体練習、パート練習）の実施

3. 団員増強

- ① 第13回定期演奏会特定ステージに参加する団員を積極的に受け入れる。
- ② 団員個人の人脈を活用し、エルデの活動への参加と入団のお誘いを積極的に実施する。
- ③ 様々な演奏機会を活用し、エルデへの入団を呼び掛ける。

- ④ 広報、インターネット、練習見学会、ポスター等を活用した効果的な団員獲得の為のPR活動を実施する。
- ⑤ 入団時オリエンテーションや個別事情に応じた的確なフォロー等（主として団長、パートリーダーが対応）を通じ新入団員の定着化を図る。
- ⑥ エルデホームページを団員増強への有効なツールをして積極的に活用。

4. その他

① 懇親会等

団員相互の懇親を深める為、定例懇親会を毎月最終練習日に原則実施する他、イベント参加等の機会をとらえた懇親会を随時実施する。

- ② エルデホームページを適時改善し、より魅力的で団員数増加にも効果的なホームページとする。

2018年3月31日

萩原 誠

男声合唱団エルデの活動継続のための提言

1. はじめに

ア) エルデの運営は、財政的に苦境に直面しており、当面の打開策として、昨年12月16日の臨時総会において、(i)団費の値上げ(4000円/月→5000円/月)、(ii)月1回は指導者(指揮者)なしの団内練習への切替えにより、当面の活動を継続することになりました。

イ) ①エルデは多摩地区で30年以上の長い活動実績を誇り、また②他の男声合唱団には見られない演技付き歌唱のあるステージを含むユニークなスタイルでの定期演奏会の開催、③かつては、その歌唱力の高さから他の男声合唱団からも畏敬の念で見られていたこと、そして私自身も④そのようなエルデの一員として、エルデの演奏スタイルを維持しつつ、活動することに誇りを感じていました。

しかし、上記(ii)の月1回の団内練習への切替えは、やむない財政状況とはいいながら、私には強いショックとなりました。

これでは、エルデの歌唱力の高さを維持することは出来ず、そのような歌唱力の低い状態でエルデの演奏を入場料をいただいて皆さんに聞いていただくことは出来ず、新たな団員の増強を図ることも困難となるのではと思います。

ウ) このような状況の中で、本年1月中旬に河野団長より次期団長引受けについての打診を受けました。現状の苦境にあえぐ団の再生を図る具体的な打開策もないまま引受けすることは無責任と考え、打開策を模索しつつ、私の現在の事業(特許事務所経営)及びその前職場(企業の特許部)との関連で30年以上のビジネス上の付き合いのある(株)サンビジネスの社長にエルデの現状をお話し、財政上の援助をお願いしたところ、何の見返り条件もなく、私を信頼して、私が援助をお願いした金額をはるかに上回る金額での賛助金の支給を約束くださいました。

エ) また、私は、他に「お山の大将」にも在団(約3年半)しており、来期には重要な役職での就任が内定しておりましたので、迷惑をかけることとなるため、松田先生をはじめ団員にも事情を説明し、エルデの運営に専念したいため休団したい旨の申入れをしたところ、気持ちよく了解していただきました。

その上、松田先生をはじめ団員の皆さんも、団として出来る限りの応援をする旨の励ましを受けました。

オ) 私はエルデに参加してまだ4年しか経っておらず、私より在団年数の長い諸先輩を差し置いて団長となるような器でもないと自覚しておりますが、かかる状況下で以下の内容での私の提言に皆様の賛同が得られるならば、団長を引受け、責任を持

って団の再建を図る所存です。

2. 日常練習活動の改善策

- ア) 現状で臨時総会で決めた「団内練習月1回」を廃止し、元に戻しても下記の計算通り、年間75,000円の赤字となります。

収 入	支 出	収支差額
団 費 5,000 円/月 団員数 18 名 $5,000 \text{ 円} \times 12 \text{ ヶ月} \times 19 \text{ 名}$ 1,140,000 円	練習の頻度： 年間 50 週（毎土曜） 1.練習に係る費用： 985,000 円 （謝 礼：17,500 円/月） （会場費：2,200 円/月） 2 会議・パート練習会場費： 45,000 円 3.合唱祭関連費用： 86,000 円 4.その他費用： 39,000 円	
1,140,000 円	1,155,000 円	▲15,000 円

仮に何らかの原因で団員が1名減って新しい団員も入ってこないとする、年間60,000円の収入減となりますので、このようなリスクを折込むと、年間75,000円の赤字を覚悟しなければならず、再度の団費値上げが必須となります。

- イ) そこで練習減月1回を回避し、かつ当面1～2名の団員減があったとしても日常練習活動が影響を受けないようにするために、賛助金50,000円/月のうち20,000円/月をこれに当てます。

すると、収入が240,000円/年増え、1,380,000円/年となり最悪2名減による団費収入減120,000円/年を差し引いても団費収入は1,260,000円/年となり、収支は105,000円/年の黒字となります。この黒字分は、日常活動予備費（仮称）として備蓄し、不定期に発生する演奏活動に支出します（ちなみに、団員の増減がなければ225,000円/年の黒字となります）。

- ウ) このように日常練習活動に対する財政的余裕が生まれると、地域活動参加時に指導者（指揮者）を伴った参加が可能となり、より歌唱力の高い演奏が可能となります。

その結果、団員となってエルデの演奏に加わりたいと思う人が現れる可能性が高

まります。

- エ) また、エルデが歌唱力を供えていけば、その歌唱力を維持向上させることに費用がかかることを理解してもらい、ボランティア的賛助金をお願いすることも可能となります。
- オ) なお、この日常活動賛助金 20,000 円/月を含むエルデの「本会計」と 30,000 円/月を含む「定演会計」とは別会計とするだけでなく、互いに原則として借り貸しをなくし、お互いが活動予備費を供えた独立会計とすることにより、お互いの財政事情を気にすることなく、自由に活動を企画推進できるようにします。

3. 定演活動の改善策

- イ) 過去3回の定演会計における主たる収支項目の変遷は下記の通りです。

定演会計における主たる収入項目の変遷

(単位：円)

		第10回	第11回	第12回	(予想) 第13回
	会 場	オリンパス	オリンパス	日野市民会館	—
		(26名)+1名	(23名)+10名	(18名)+10名	
収 入 の 部	1. 団員参加費	901,000	870,000	724,000	—
	2. 本会計よりの補助	0	0	54,000	▲54,000
	3. 団員チケット売上	865,000	897,000	613,000	—
	4. ホール、当日売上	97,000	81,000	55,000	—
	5. 祝 金	98,000	66,000	50,000	▲20,000
	6. 広告・賛助金	585,000	585,000	525,000	▲300,000

これによれば第13回定演(2019年9月又は10月予定)における収入の部においては、370,000円~380,000円の収入減を覚悟しなければならないこととなります。

(「—」は第12回定演時と大きな変動がないと仮定しています)

- ウ) 今回いただく賛助金 50,000 円/月のうち 30,000 円/月を定演活動予備費(仮称)として計上しますと、第13回定演時には、30,000 円/月×18カ月=540,000 円となり、これで減少分を吸収できそうですが、以下の理由からそれはできません。
- エ) まず、前回の第12回定演で考えてみますと、定演間際の8月、9月の謝礼金と練習会場費がかなり上昇しています。これは追加練習によるものです。通常の月間の練習にかかる費用は謝礼金と会場費合わせても、平均 80,000 円程度((謝礼 17,500 円+会場費 2,200 円)×4)ですが、8月は約 17 万円、9月は約 20 万円となっており、8月で 9 万円、9月で 12 万円の増となっております。
- オ) 来年度から、このような定演に関係する費用はすべて定演会計から支出するよう

に変更するとした場合、21万円（9万円+12万円）は定演活動予備費から充填することになります。

そして、次回以降の定演活動を支障なく円滑に行うためには、54万円の予備費のうち少なくとも半分の24万円は備蓄しておく必要があります。すると、使える予備費の27万円のうち21万円は上述の充填に使用しますので、上述した収入減に補填できるのは、6万円であり、結局31～32万円の収入減は、支出を制限することにより対処する以外にないこととなります。

カ) 過去3回の定演会計における主たる支出項目の変遷は下記の通りです。

定演会計における主たる支出項目の変遷

(単位：円)

		第10回	第11回	第12回
支 出 の 部	* 印刷関係費	201,000	152,000	155,000
	* 会場使用料	804,000	749,000	557,000
	* 会場関係費	152,000	126,000	108,000
	謝礼金	572,000	645,000	723,000
	* レセプション代	153,000	158,000	115,000
	* その他			

*を付けた項目についても削減の余地はあると思われませんが、どうしても着眼せざるを得ないのは、最大支出項目である「謝礼金」です。

キ) 「謝礼金」の内訳で上位にランクされるのは、

- 1) 前田先生のエレクトーン演奏に伴う費用：約27万円（エレクトーンレンタル及び運搬費及び練習参加時の謝礼金含む）
- 2) 歌譜喜の特別参加費用：約15万円（練習参加時の交通費含む）
- 3) 振り付け関連および特別ゲスト出演費：約10万円

の3項目です。

ク) 項目1) について

エルデの定演の最終ステージの盛り上げに前田先生のエレクトーン演奏があったことは誰しもが認めるどころです。記録によれば、前田先生は遅くとも第7回定演からエルデにご協力いただいております。当時のエルデは恐らく（これは私の推測です）合唱団として歌唱力も高く、高名な前田先生を招聘して演奏をお願いしても、前田先生の演奏力とエルデの歌唱力がマッチしてすばらしい演奏となったのだと思います。

しかし、私が入団してから4年間の実感として、昨今のエルデの歌唱力が前田先生の演奏にマッチするだけの力量を有しているか率直に言って疑問です。

このような力量のミスマッチの状態では、前田先生に演奏をお願いすることは、前田先

生に失礼ではないかと考えています。

従って謝礼の問題が最大の理由ではありますが、少なくとも次回の定演での前田先生の招聘は断念し、今後エルデの力量が向上し、かつ財政上も安心して、お願い出来るレベルに達した段階で、お願いするようになりたいと思います。

ケ) 項目 2) について

歌譜喜がエルデの演奏会に参加するようになったのは、第 11 回定演からで、この時には第 3 ステージで、エルデと歌譜喜とがそれぞれ独自の演奏を行いました。第 12 回定演では、第 3 ステージを歌譜喜の特別ステージとして設定したことに加え、第 1 ステージ (A-POP) では歌譜喜の男性メンバーの参加を得る形態での演奏を行っています。

このように歌譜喜への依存度を高めることについての是非は議論しておく必要はあると思います。

私は将来的には歌譜喜の参加がなくても、エルデ単独でステージ構成が出来るようになってもらいたいと思いますが、少なくとも次回の第 13 回定演では困難ではないかと考えますので、今回は費用削減の対象からはずします。

ただ、歌譜喜を次回の定演に招聘するにしても、そのステージ構成をどのようにするかについては、運営委員会、技術委員会で十分検討いたします。

コ) 項目 3) について

振り付けを簡略化する及びゲスト出演者を必要最小限にしばる等の努力をすることで、約半分程度 (5 万円) に絞ることは可能だと思います。

4. 定演での演奏曲の選定について

少なくとも過去 2 回の定演 (第 11 回、第 12 回) での演奏曲の選定に関して、これらの選定曲を指揮する指揮者が選定に関与した事実はありません。選定曲がすばらしい演奏となるか否かは、指揮者の技量に懸っているわけですから、選定曲が指揮者の立場からみてエルデの現在の技量からふさわしいか否かの判断をしてもらう必要があります。

従って、現在既に決まって練習も行われている「雪と花火」は別として、これから決めようとしている曲については、これを指揮していただく予定にしている先生の意見も十分取入れて選曲するようにします。

5. 個人ボイストレーニングについて

継続して続けていきます。

6. おわりに

以上、私の考えを述べさせていただきましたが、皆様の活発な討議をお願いいたします。